



CASE STUDY

分断をつなぐ対話のチカラ

世界中で起こっている分断や対立。様々な文脈を生きてきた人が互いの歴史や価値観の背景を共有することで、平和な世界を考える。

<目的>

ジェノサイドのサバイバー、アパルトヘイトの今、分断や対立の最前線では何が起こっていたのか。そこで何を感じて過ごしてきたのか、対話を通じて、自分の認識をリフレーミングし、認知・思考・行動変容を起こす。

<プログラム設計のこだわり>

ケーススタディではない、リアルな人との膝を付合わせた対話：

当事者として最前線で関わる方達との対話を通じて、史実としての話ではなく、現在進行形の出来事で自分自身もその物語の一部であると感じられるよう設計。

タブーはない、激論に加わる：

センシティブな場を作ることを企画としてあまりしない風潮が強いですが、だからこそタイガーモブが作る必要があると思っています。可哀想なこと、大変だったで留まらないようにする機会を作ること、その世界を牽引したい、なんとかしたいと思うリーダーが出てくると信じています。

感じるだけじゃない表現する：

実際にWebメディアで自分の考えを言葉にします。与えてもらうだけじゃない、その上で自分が経験したこと、感じたことを広く伝える、発信することで社会からリアクションをもらうことを大切にしています。



南アフリカ
ヨハネスブルグの
街角から



インタビュー企画「あなたは差別を受けたことがありますか？」



CASE STUDY

長野日本大学学園 様

地域の魅力を世界に発信する、部活動「世界部」を立ち上げ、幼稚園・小学校・中学校・高校の合同PBL活動

<目的>

海外に行かずして、「長野県の魅力を世界に発信する」ことを実現するためにスタートしたプロジェクトです。

地域の有名企業をはじめ、長野県庁、長野市役所のサポートもいただきながら、生徒が自ら考えたことをどんどん形にしていきます。

<プログラム設計のこだわり>

世界中からゲストを招待：

彼らのプレゼンを聞きに3ヶ月に一回を目安に世界中からゲストが、やってきます

魅力を発信している最前線の日本人がメンター：

世界各国で魅力を発信している日本人が生徒のために一肌脱いで、サポートしていただいています。

現地サーベイ：

現地に行っている方々にサポートしていただき、フィールドワークやサーベイをおこないます。

実際に作って、輸出を試みる：

オンラインで起こりがちなアイデアだけを考えるのではなく、実際にモノの流れを起こすべく、企業と連携しています

本当に販売して稼ぐ：

実社会で通用するのかを実際に販売というアウトプットをすることで、肌身をもって感じる機会を作ります





篠原 哲

上智大学 4年
ルワンダ